

武蔵野美術大学 教職課程の概要

第12年報

2026(令和8)年4月1日現在

武蔵野美術大学

■この報告書について■

この『武蔵野美術大学教職課程の概要』は、2014(平成26)年9月26日公布の改正省令(平成26年文部科学省令第28号)によって改正された教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号。以下、「施行規則」という。)第22条の6に基づいて、武蔵野美術大学の教員養成の状況について公開するものです。この改正された施行規則は、2015(平成27)年4月1日から施行され、同条に次の各号のとおり公開すべき内容が定められています(初等高等局長発通知、平成26年9月26日、26文科初第630号)。

- ① 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること。(施行規則第22条の6第1号)
- ② 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること。(施行規則第22条の6第2号)
- ③ 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間授業計画に関すること。(施行規則第22条の6第3号)
- ④ 卒業者の教員免許状の取得状況に関すること。(施行規則第22条の6第4号)
- ⑤ 卒業者の教員への就職の状況に関すること。(施行規則第22条の6第5号)
- ⑥ 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること。(施行規則第22条の6第6号)

この『武蔵野美術大学教職課程の概要』は、この全6号で定められた内容を網羅するもので、6つの章に分けて情報を掲載します。すでに本学は法令で定められた大学情報の公表や各授業科目のシラバスの公開などをウェブページや印刷物を用いて行っていますので、より詳しい情報を記載したものがある場合は「**詳細参照**」として明示しています。

通信教育課程の情報公開については、公益財団法人私立大学通信教育協会「大学通信教育教職課程ガイドライン」(令和3年3月制定)に依拠します。なお、新たに2022(令和4)年4月より施行される教職課程の時期点検評価義務に伴う報告書は、大学ウェブページで公表されています。

この『武蔵野美術大学教職課程の概要』は、2015(平成27)年4月1日に第1年報を公表して、その後も年度ごと公表のうえ、ここに2025(令和7)年4月1日に第11年報を公表します。なお、過年度に掲載していた「免許状更新講習実施数」は2022(令和4)年の廃止に伴い項目を削除しています。

目次

1	■本学の教育目標と教員養成の目標■ (施行規則第22条の6第1号) ————— 3
	■教員養成の目標 ■造形学部の教育理念・教育目標と3つのポリシー
2	■教職課程の構成■ (施行規則第22条の6第2号) ————— 6
	■教員の養成に係る組織及び教員の数 ■教職課程の教員の学位及び業績
3	■教職課程の授業科目の概要■ (施行規則第22条の6第3号) ————— 1 2
	■定員及び課程認定状況 ■教職に関する科目一覧 ■年間の授業計画
4	■免許状の授与件数■ (施行規則第22条の6第4号) ————— 1 7
	■教職課程受講者人数 ■免許状授与件数
5	■就職状況■ (施行規則第22条の6第5号) ————— 2 3
	■東京都教員選考合格者実績 ■学校教員の採用実績
6	■質向上の取組■ (施行規則第22条の6第6号) ————— 2 4
	■教職課程自己点検評価書の公表 ■大学独自教科書の発行 ■美術と福祉プログラム
	■造形ファシリテーション能力獲得プログラム ■旅するムサビ・ムサビる
	■学校ボランティア・インターンシップ ■教職課程の授業評価 ■児童生徒・保護者向けの情報公開
	■教育研究施設の充実 ■科学研究費補助金による研究活動 ■研究室雑誌『造形と教育』の刊行

1 ■本学の教育目標と教員養成の目標■ (施行規則第22条の6第1号)

■教員養成の目標

武蔵野美術大学は、教員の養成の目標として、造形学部全体、通学課程各学科、通信教育課程のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、建学の精神である「教養を有する美術家養成」を基盤として、自らが「真に人間的自由に達するような美術教育」を担う主体としての美術科教員、工芸科教員、情報科教員を養成することを目標としています。

このため、教育職員免許法による中学校の美術科、高等学校の美術科、工芸科、情報科の免許状を授与するための教育課程を整備するとともに、さらに学校における造形教育を担うための実践的な指導力と教員としての幅広い教養をもつ人材の養成を進めています。

具体的には教育職員免許法などで定める必要最低限の科目にとどまらず、必修や選択の授業科目を加えています。通学課程では、介護等体験法に連動して「美術と福祉」を必修（情報免許を除く）として社会福祉に関する教養と美術について造形ワークショップを中心とした実践能力を培い、選択科目として「教育学特別演習」「教育方法特別演習」などの教職教養や専門教養のゼミ形式の科目を増設し、さらに「ワークショップ実践研究Ⅰ」「ワークショップ実践研究Ⅱ」を開講しています。通信教育課程では介護等体験法に連動して「介護等体験」を必修（高等学校のみの場合を除く）として社会と造形についての実践能力を培い、「大学が独自に設定する科目」の「ワークショップ研究Ⅰ」「ワークショップ研究Ⅱ」を選択科目として開設しています。

こうした特色あるカリキュラムと、各免許状で必要な「教職に関する科目」「教科に関する専門的事項」を充実して、実践的指導能力と幅広い教養をもつ教員養成をすすめています。

■造形学部の教育理念・教育目標と3つのポリシー

造形学部全体で定めている教育目標や教育方針は次のとおりです。このほか、大学院、通学課程各学科、通信教育課程においても定められています。

教育理念

武蔵野美術大学の教育理念は、昭和4（1929）年10月30日、本学の前身である帝国美術学校の創立に由来するものです。

帝国美術学校の創立に寄与し、後にその経営と教育の中心となった金原省吾（開校時学監）の手記には「教養を有する美術家養成」と記されています。また、創立時の中心人物のひとり名取堯（開校時主事）の『武蔵野美術』（創立三〇周年記念特集）に寄せられた30年の回顧には、「人間が人間になる道は激しい鍛錬、たゆまざる精進の中であって、放任の中にはない、その框（わく）を固定させず、しかも、放縦に任せず、真に人間的自由に達するような美術教育への願い」であると語られており、美術を技術的専門性だけでなく、総合的な人間形成をもって成るものと考えたのです。

このように、まさに人間的自由に達するために美術・デザインを追求することこそが、本学の教育理念であると言うことができ、国内美術大学では最大規模の造形教育の大学となった現在も、この教育理念を継承し堅持しています。

教育目標

武蔵野美術大学造形学部は、美術を総合的な人間形成をもって成るものとする教育理念に基づき、次の教育目標を掲げる。

1.幅広い教養を備え、人格的にも優れた美術・デザインを中心とする造形各分野の専門家を養成する。

2.美術とデザインの領域における総合的な造形教育を通じて、広く知識を授けるとともに、深く専門の技能、理論や応用を教授研究し、豊かな美的教養をそなえた社会人を育成する。
こうした人材の輩出をもって、日本と世界の文化の創造発展と社会に貢献することを、武蔵野美術大学の使命とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

造形の各分野を専攻するにあたっては、総合的判断力・批判力を養うために広く諸学問を学ぶ〔文化総合科目〕、造形という大きな視点から専門性の位置づけや基礎を確認するために、自分の専攻とは異なった領域や他学科の開設する授業を学ぶ〔造形総合科目〕、個々の学科が独自に専門的能力を追求する〔学科別科目〕の三者をバランスよく学修することによりディプロマ・ポリシーを実現する。専門分野を系統的・体系的に学修できるように各科目を適切に配置することで、造形領域の基礎と総合的判断力を備え、学科独自の専門能力を会得した人物を養成する。

- ・専門分野の基盤を独自のかたちで構築するため、文化や諸科学について総合的に学修する科目
- ・専門分野の基盤を独自のかたちで構築するため、他者に伝える表現能力および他者とともを考える対話能力を身につける科目
- ・他の領域にも広く目を開き経験することによって、造形を総合的に捉えることを目的とし、制作・研究を深め広げる技能を身につける科目
- ・専門家として欠くことのできない専門的基礎理論・表現方法などを学修し、専門的な知識を理解し深める科目
- ・論理的思考・創造的思考を働かせ、独創的な課題解決の判断や構想を行う科目
- ・制作・研究に幅広い関心と高い意欲を持ち、学修の集大成として社会のなかで主体的に取り組む科目
- ・学修の集大成として批判的思考を働かせ、課題や主題を自主的に設定する科目

こうした有機的な科目群の結びつきと展開性は、本学の教育の大きな特徴であり、教育理念及び教育目標に基づくものである。

1.2 年次においては、基礎教育を中心に行い、3.4 年次においては、専門教育を中心に行う。実施の方針については、各学科のカリキュラム方針に定める。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

武蔵野美術大学は幅広い教養を備え人格的にも優れた美術家やデザイナーなど、造形芸術の専門家を養成してきました。本学教育課程を主体的に修め努力できる次のような資質・能力を備えた学生を求めています。

- 1.専門性と表現を深めるための基礎的な学力を身につけている人
- 2.専門性を支える幅の広い造形力や教養を総合的に身につけようとする人
- 3.論理的思考・創造的思考を働かせて独自の表現で伝えようとする人
- 4.文化の創造発展に寄与し、社会で活躍しようとする人

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

武蔵野美術大学造形学部は、教育目標の実現のため編成されたカリキュラムのもと、設定された科目を履修し、卒業制作または卒業論文・研究を提出したもので、卒業に必要な単位を修得したものに卒業を認め学士（造形）の学位を授与する。具体的には、造形分野における独自の探求を行い、創造的な表現活動を実現するために、以下の7点をディプロマ・ポリシーとする。

- ・専門的な知識を理解し深めることができる。
- ・専門分野の基盤となる文化や諸科学について総合的に理解している。
- ・制作・研究を深め広げる技能を身につけている。

- ・他者に伝える表現能力および他者とともに考える対話能力を身につけている。
- ・批判的思考を働かせ、課題や主題を自主的に設定することができる。
- ・論理的思考・創造的思考を働かせ、独創的な課題解決の判断や構想ができる。
- ・制作・研究に幅広い関心と高い意欲を持ち、社会のなかで主体的に取り組むことができる。

詳細参照 建学の精神は『武蔵野美術大学のあゆみ』（武蔵野美術大学出版局、2009年）をご覧ください。通学課程各学科や通信教育課程の教育目標などは大学ウェブページの「大学概要 武蔵野美術大学について 建学の精神・教育理念」「大学情報の公開」をご覧ください。

2 ■教職課程の構成■ (施行規則第22条の6第2号)

■教員の養成に係る組織及び教員の数

武蔵野美術大学では、造形学部の通学課程と通信教育課程、大学院を円滑に運営するために、3人の専任教員を中心とした教職課程研究室を組織しています。また教職課程の教育をサポートするために教職課程資料閲覧室を開設しています。教職課程全体の運営は、学則等に基づいて造形学部教授会、教務学生生活委員会、通信教育課程教務委員会を組織して、教職課程履修登録、介護等体験、教育実習などの議案として扱っています。さらに教職実践演習では別個に判定会議を置いています。

○教職課程に関する専任教員数 (2019(平成31)年度の再課程認定による新課程)

令和8年4月1日現在		通学課程								通信教育課程											
		教科に関する科目								教職に関する科目		教科に関する科目								教職に関する科目	
		中美		高美		高工		高情				中美		高美		高工		高情			
		必	実	必	実	必	実	必	実	必	実	必	実	必	実	必	実	必	実		
造形学部	日本画学科	3	5	3	7	3	3			2	3							2	2		
	油絵学科油絵専攻	3	11	3	11	3	4					3	7	3	7	3	3				
	油絵学科 グラフィックアート専攻	3	5	3	5	3	5														
	彫刻学科	3	6	3	5	3	3														
	視覚伝達デザイン学科	3	10	3	10	3	10														
	工芸工業デザイン学科	3	9	3	9	3	9														
	空間演出デザイン学科	3	9	3	9	3	9														
	芸術文化学科	3	6	3	6	3	6					3	4	3	4	3	3				
デザイン情報学科							*	*							*	*					

*デザイン情報学科の「高情」(高等学校情報科の一種免許状)は、再課程認定を行わなかったため、2019(平成31)年度からは新課程はなく、旧課程(2年次以上在学者等)のみである。

「中美」「高美」「高工」「高情」は、中学校美術、高等学校美術、高等学校工芸、高等学校情報の一種免許状。「必」「実」は教育課程認定基準に基づく専任教員の必要数と実際数。実際数は2019(平成31)年度実施の新課程の教育課程に関する文部科学省への申請事項の数値による。なお、大学設置基準等に基づく必要専任教員数や実際数は、これよりも大きな人数となっている。

■教職課程の教員の学位及び業績

○ 専任教員 (3名)

授業科目名のA Bなどの記号は省略した。2023(令和5)年度をもって大坪圭輔教授が定年退職した。

■伊東 毅 (いとう・たけし) 教授

担当科目：(通学)生活指導の理論と方法、特別活動の理論と方法、道徳教育の理論と方法、

教育実践の理論と方法、教育実習、教職実践演習(中高)、教育学

：(通信)教育相談論、生活指導の理論と方法、教育実践の理論と方法、教育実習、教職実践演習(中高)

修士(教育学)。東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。教育哲学を専攻。著書(単著)に

『未来の教師と考える特別活動論』武蔵野美術大学出版局2022年、『未来の教師におくる特別活動論』武蔵野美術大学出版局2011年、共編著に東宏行・伊東毅『新時代の生徒指導』放送大学教育振興会2023年、高橋陽一・伊東毅編『これからの生活指導と進路指導』武蔵野美術大学出版局2020年、高橋陽一・伊東毅著『道徳科教育講義』武蔵野美術大学出版局2017年、高橋陽一・伊東毅編『新しい教育相談論』武蔵野美術大学出版局2016年、汐見稔幸・伊東毅ほか編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房2011年、共著に公益財団法人私立大学通信教育協会編『新しい教育事情』同協会2016年、教育科学研究会編『なくなる「いじめ」を考える』国土社2008年、『教育相談論』武蔵野美術大学出版局2002年ほか、学術論文に「現代日本におけるいじめの特質—教育システムといじめとの関係の考察を中心に」社会文化学会編『社会文化研究』第4号晃洋書房2001年ほか。

詳細参照 武蔵野美術大学ウェブページ「専任教員プロフィール集」

■三澤一実（みさわ・かずみ） 教授

担当科目：（通学）教育方法、美術教育法ⅠⅡⅢ、美術教育法題材開発、教育実践の理論と方法、教育実習、教職実践演習（中高）、ワークショップ実践研究Ⅱ

：（通信）教育方法（ICT活用を含む）、美術教育法Ⅰ、教育実践の理論と方法、教育実習、教職実践演習（中高）

（大学院）美術教育研究

修士（芸術学）。東京藝術大学大学院修士課程修了。美術教育を専攻。監修に『美術教育の題材開発』武蔵野美術大学出版局2014年、共著・編著に『ひろがる鑑賞』2026年、『造形実験』2024年、『美術の授業のつくりかた』2020年いずれも武蔵野美術大学出版局、文部科学省検定中学校教科書『美術1』『美術2・3』開隆堂2012年、『美術教育の動向』武蔵野美術大学出版局2009年、『小学校学習指導要領の解説と展開 図画工作編』教育出版2008年など。

詳細参照 武蔵野美術大学ウェブページ「専任教員プロフィール集」

■高橋陽一（たかはし・よういち） 教授

担当科目：（通学）教師論、教育原理ⅠⅡ、教育実践の理論と方法、教育実習、教職実践演習（中高）、教育学特別演習、総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育、ワークショップ実践研究Ⅰ

：（通信）教師論、教育原理ⅠⅡ、道徳教育の理論と方法、教育実践の理論と方法、教育実習、教職実践演習（中高）、総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育、ワークショップ実践研究ⅠⅡ

：（大学院）教育学研究

修士（教育学）。東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。日本教育史（国学・宗教教育）を専攻。著書（単著）に『新しい教育通義 増補改訂版』『造形ワークショップを支える』『美術と福祉とワークショップ』『ファシリテーションの技法』『チーム学校の教師論』以上武蔵野美術大学出版局、『共通教化と教育勅語』東京大学出版会、『くわしすぎる教育勅語』太郎次郎社、監修に『ワークショップ実践研究』、共編著に『道徳科教育講義』『新しい教育相談論』『造形ワークショップ入門』『造形ワークショップの広がり』『新しい教育相談論』『特別支援教育とアート』『総合学習とアート』『これからの生活指導と進路指導』『造形ワークショップをつくる』いずれも武蔵野美術大学出版局、共著に東京大学史料室編『東京大学の学徒動員・学徒出陣』東京大学出版会1997年ほか。公益財団法人私立大学通信教育協会理事長。

詳細参照 武蔵野美術大学ウェブページ「専任教員プロフィール集」

○非常勤講師

教職課程研究室に所属して教育活動に当たる非常勤講師を五十音順に列記した。一部に教科に関する

科目などを含む。授業科目名のA Bなどの記号は省略した。

2023(令和5)年度をもって、久田晴實講師、細野泰久講師、渡辺典子講師が退任した。2024(令和6)年度より、浅井直美講師、今井陽子講師、佐々木敏幸講師、田中俊一講師、滝澤佳奈枝講師、波田野公一講師、濱脇みどり講師、山田猛講師が着任した。2024(令和6)年度末に長澤博昭講師が退任した。2025(令和7)年度末をもって有福一昭講師と波田野公一講師が退任した。2026(令和8)年度より近藤美智子講師、小西悟士講師、花里裕子講師が着任した。

■浅井直美(あさい・なおみ)講師 (通学) 教育学Ⅱ

修士(教育学)。千葉大学大学院教育学研究科修了。家政教育専攻。共著に文部科学省検定教科書『技術・家庭 家庭分野』開隆堂出版株式会社 2021年など、学術論文に「全国家庭科教育協会(ZKK)の設立の経緯とその目的」『日本家庭科教育学会誌』第65巻第3号 2022年。1984年から2021年まで東京都立中学校家庭科教諭。現在、全国家庭科教育協会事務局長。

■今井陽子(いまい・ようこ)講師 (通信) 工芸教育法Ⅰ

修士(文学)。成城大学大学院文学研究科美学美術史課程修了。東京国立近代美術館入職後は近代工芸分野を専攻。単著に『ボディブック&ノート』東京国立近代美術館2013年、共著に Paul Greenhalgh 編『The Persistence of craft- The Applied Arts Today』A&C Black, 2003、『日本の20世紀の芸術』平凡社2014年、『ポケモン×工芸 美とわざの大発見』東京美術2023年、主な論文に「人形をめぐる幾つかの視点」『美学美術史論集』成城大学文学研究科2011年、「研究ノート：子どもとつくる工芸図鑑」『東京国立近代美術館研究紀要』第23号2019年などがある。現在国立工芸館主任研究員。

■大多和雅絵(おおたわ・まさえ)講師 (通信) 教育原理Ⅰ

博士(社会科学)。神奈川大学人間科学部助教。お茶の水女子大学大学院博士前期課程修了。日本教育史(戦後教育史)を専攻。単著に『戦後夜間中学校の歴史』六花出版2017年、共著に『戦後教育史をひらく』六花出版2024年、共生社会の学校づくり研究会編『貧困・障がい・国籍 教育のインクルーシブ化に学校はどう備えるか』学事出版2020年。学術論文に「戦後夜間中学校の研究—東京都夜間中学校日本語学級の開設に着目して」『日本の教育史学』第54集2011年など。

■岡田京子(おかだ・きょうこ)講師(通学) 美術教育法Ⅰ(通信) 教育方法(ICT活用を含む)

修士(教育学)。横浜国立大学大学院教育学研究科修了。美術教育学を専攻。著書(単著)に『はじめての図工』東洋館出版、『成長する授業』東洋館出版、『世界一わかりやすい 図画工作科の授業づくり』明治図書、『その子は、なにを描こうとしたのか?』東洋館出版、共編著に『わくわく図工レシピ集』東洋館出版、『子どもスイッチON!! 学び合い高め合う「造形遊び」』東洋館出版、『指導スキル大全 図画工作』明治図書、『小学校新学習指導要領図画工作科題材&授業プラン』明治図書等がある。東京都立小学校教諭、文部科学省教科調査官、国立教育政策研究所教育課程調査官、文化庁教科調査官を歴任。

詳細参考 東京家政大学ウェブページ「教員紹介」

■桂瑠以(かつら・るい)講師 (通信) 教育心理学

博士(人文科学)。川村学園女子大学文学部心理学科教授。お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了。社会心理学・教育心理学を専攻。共著に『新しい教育相談論』武蔵野美術大学出版局2016年、『考えるための心理学』武蔵野美術大学出版局2012年など。学術論文に「The effect of mobile phone use on communication between parents and children」『Ochanomizu University Global COE Program English Monograph Proceedings』第17巻2012年など。

詳細参考 川村学園女子大学教員紹介

■亀澤朋恵（かめざわ・ともえ）講師（通信）道徳教育の理論と方法

博士（教育学）。高田短期大学准教授。神戸大学大学院博士課程後期課程修了。日本教育史（教員養成）、美術教育史を専攻。共著に『近代日本小学校教員検定制度史研究』学文社2025年、『近現代日本教員史研究』風間書房2021年。学術論文に、「「文検図画科」試験問題の研究 —「用器画」の場合—」『日本の教育史学』第57集2014年、「受験体験記からみた「文検図画科」の受験者像」『美術教育学研究』第49号2017年など。

詳細参考 高田短期大学ウェブページ「教員紹介」

■川本雅子（かわもと・まさこ）講師（通学）総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育（通信）総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育、ワークショップ研究Ⅰ

修士（教育学）。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業、東京学芸大学大学院修士課程修了。美術教育学（社会福祉施設におけるワークショップなど）を専攻。共著に『ワークショップ実践研究』武蔵野美術大学出版局2002年、『造形ワークショップの広がり』武蔵野美術大学出版局2011年、『造形ワークショップ入門』武蔵野美術大学出版局2015年、『特別支援教育とアート』武蔵野美術大学出版局2018年、『総合学習とアート』武蔵野美術大学出版局2019年、『造形ワークショップをつくる』武蔵野美術大学出版局2026年。

■桑田直子（くわた・なおこ）講師（通信）教師論

Ph.D（マンチェスター大学による学術博士号）。島根県立飯南高等学校教諭。マンチェスター大学人文科学部博士課程修了。共著『新しい教師論』武蔵野美術大学2014年に「欧米の教員養成」を執筆。学術論文に「1920-30年代高等女学校における洋装制服の普及」『日本の教育史学』第39集1996年、「市民洋装普及過程における裁縫科の展開とディレンマ」『教育学研究』第65巻第2号1998年など。

■小西悟士（こにし・さとし）講師（通学）教育方法（ICT活用を含む）、美術教育法Ⅱ

学士（造形）。武蔵野美術大学造形学部空間演出デザイン学科卒業。埼玉大学教育学部附属中学校教諭。共著に『美術の授業の作り方』武蔵野美術大学出版局2020年、『造形実験』武蔵野美術大学出版局2024年。

■近藤美智子（こんどう・みちこ）講師（通学）総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育

修士（芸術表現）。東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。2018年よりアートコーディネーターとして開業、独立。東京藝術大学非常勤助手、特任助手（アートコミュニティ形成事業）、特任助教、横浜国立大学非常勤教員などを歴任。

■佐々木敏幸（ささき・としゆき）講師（通学）総合的な学習の時間の指導法・特別支援教育

修士（教職／芸術）。明星大学教育学部教育学科准教授。早稲田大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻修士課程修了、多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻修士課程修了。特別支援教育、絵画及び芸術学分野を専攻。単著に『特別支援教育サポート BOOKS 広がれ！自分らしさを引き出す「おもしろ」図工・美術の授業』明治図書2023年、共著に『自閉スペクトラム症のある子の「できる」をかなえる！構造化のための支援ツール 個別編／集団編』明治図書2021年、『美術の授業のつくりかた』武蔵野美術大学出版局2020年など。主な論文に「強度行動障害のある生徒への美術活動を介した移行期の教育的支援」『日本美術教育研究論集』第58号2025年など。青年海外協力隊（派遣国：エジプト・職種：美術）、東京都立特別支援学校などを歴任。

詳細参考 明星大学ウェブページ「教員情報」

■杉山貴洋（すぎやま・たかひろ）講師（通学）総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育、（通信）特別支援教育、ワークショップ研究ⅠⅡ

学士（造形）。白梅学園大学子ども学部こども心理学科教授。武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒業。造形教育を専攻。共著に『ワークショップ実践研究』『造形ワークショップの広がり』『造形ワークショップ入門』『特別支援教育とアート』『総合学習とアート』『造形ワークショップをつくる』（武蔵野美術大学出版局）『美しい未来を創る子どもたち』（公益財団法人美育文化協会）『保育内容表現』（北大路書房）など。2008年、2010年、2011年、2013年にキッズデザイン賞を受賞。2009年富田博之記念賞受賞、第7回こども環境学活動賞受賞。**詳細参照** 白梅学園大学各教員ページ

■滝澤佳奈枝（たきざわ・かなえ）講師（通信）教育原理Ⅱ

修士（文学）。お茶の水女子大学大学院博士後期課程単位取得退学。教育史（日本統治期台湾の女子教育）を専攻。共著に『哲学する保育原理』教育情報出版2018年、『哲学する学校経営』教育情報出版2019年、『日本の植民地教育を問う』皓星社2020年。主な学術論文に「公学校及び高等女学校の裁縫科で扱われた教材に関する一考察―「台裁」に着目して―」『人間発達研究』第33号2019年、「台湾の高等女学校裁縫科担当教員と奈良女子高等師範学校の関係」『植民地教育史研究年報』第22号2020年など。

■田中俊一（たなか・しゅんいち）講師（通学）教育方法（ICT活用を含む）、教育方法特別演習

学士（教育学）。市立中学校教諭（初任者指導）、文教大学非常勤講師。文教大学教育学部初等教育課程修了。埼玉県公立中学校美術科教諭として26年勤務の後、埼玉県所沢市教育委員会指導主事（図画工作・美術科担当）、市立中学校教頭、市立小学校長。埼玉県美術教育連盟常任理事。

■田中千賀子（たなか・ちかこ）講師（通学）総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育（通信）ワークショップ研究Ⅰ

博士（造形）。立教大学特任准教授。武蔵野美術大学大学院博士後期課程修了。日本教育史・美術教育を専攻。著書（単著）に『近代日本における学校園の成立と展開』風間書房2015年、著書（共著）に『造形ワークショップ入門』武蔵野美術大学出版局2015年、『特別支援教育とアート』武蔵野美術大学出版局2018年、『総合学習とアート』武蔵野美術大学出版局2019年、『造形ワークショップをつくる』武蔵野美術大学出版局2026年。『自然とともに生きる 森林教育学』青海社2024年。学術論文に「学校園概念の成立」『日本の教育史学』第52集2009年、「東京市の公立小学校における学校園の展開」『日本の教育史学』第55集2012年など。東海大学非常勤講師、東京家政大学助教、森林総合研究所多摩森林科学園非常勤研究員などを歴任。

■唐音啓（とう・おんけい）講師（通学）教育心理学、教育相談論

修士（教育学）。東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻教育心理学修士課程修了。共愛学園前橋国際大学専任講師、獨協大学非常勤講師。主な論文に、「学級集団の構造といじめ問題に関する研究の概観」『東京大学大学院教育学研究科紀要』（59）、2020年。

■徳山高志（とくやま・たかし）講師（通学）美術教育法Ⅱ、美術教育法題材開発、美術の理論と歴史と鑑賞（通信）美術教育法Ⅱ

修士（造形）。筑波大学大学院修士課程芸術研究科修了。ワークショップに基づく中等教育におけるデザイン授業の研究実践を主眼に活動。編著に『CIデザインとはなにか』日本文教出版社2005年、単著に『科学とアート・こどもフェスティバル2005』2005年、『同2006』2006年（いずれもNPO法人西荻まちメディア刊）、『鑑賞授業のつくりかた』吉祥女子高刊2009年。パナソニック教育財団実践研究助成を2004年第30回『学生と商店会によるCI計画とその映像配信』で、2009年第35回『YouTube・ICTを利用した「体験・鑑賞一体型鑑賞教育プログラム」モデルの開発』で受賞。

■中村美知枝（なかむら・みちえ）講師（通学）美術教育法Ⅲ（通信）美術教育法Ⅱ・美術教育法Ⅳ
修士（教育学）。東京学芸大学大学院教育学研究科修了。美術教育を専攻。東京藝術大学、東京都立高等学校、非常勤講師。共著に文部科学省検定教科書『新・高校生の美術1』『高校生の美術2』『高校生の美術3』日本文教出版2026年など。学習指導要領の改善に係る調査研究協力者（平成21年告示高等学校芸術（美術）、文部科学省）。評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者（平成24年、高等学校芸術（美術）、国立教育政策研究所）。東京都立総合芸術高等学校教諭など東京都立高等学校教諭を歴任。

■橋本萌（はしもと・めぐみ）講師（通信）特別活動の理論と方法
博士（社会科学）。信州大学学術研究院総合人間科学系助教（教職支援センター）。お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了。日本教育史（修学旅行の歴史）を専攻。単著に『「伊勢参宮旅行」と「帝都」の子どもたち』六花出版2020年。学術論文に「1930年代東京府（東京市）小学校の伊勢参宮旅行―規模拡大の経過と運賃割引要求―」『教育学研究』第80巻第1号2013年、「1920年代小学校最上級学年児童の宮城拝観についての一考察」『日本の教育史学』第62集2019年など。2019年第9回教育史学会研究奨励賞を受賞。2021年鉄道史学会住田奨励賞受賞。

■花里裕子（はなざと・ひろこ）講師（通学）美術教育法Ⅲ、美術教育法題材開発
学士（造形）。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。東京都公立中学校、目白研心高校、開成高校、東京藝術大学にて非常勤講師。著書は単著に教育資料『デザインって何だろう』日本文教出版2024年、共著に「中学校美術教科書『美術1』『美術2・3上』『美術2・3下』日本文教出版、『美術教育ハンドブック』三元社2018年、『美術の授業の作り方』武蔵野美術大学出版局2020年、『表現する教室の作り方』東洋館2022年など。

■濱脇みどり（はまわき・みどり）講師（通学）教育方法（ICT活用を含む）、美術教育法Ⅱ、美術教育法題材開発、教職実践演習（中高）（通信）美術教育法Ⅲ、教職実践演習（中高）
修士（教育学）。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。東京学芸大学大学院教育学研究科修了。美術教育を専攻。東京学芸大学、白梅学園大学、東京都立学校非常勤講師。共著に文部科学省検定中学校教科書『美術1』『美術2・3』開隆堂2020年、『平成29年度改訂中学校教育課程実践講座美術』ぎょうせい2020年、『求められる美術教育』武蔵野美術大学出版局2020年など。1990年度～2022年度東京都中学校教諭を歴任。

■山田猛（やまだ・たけし）講師（通学）工芸教育法Ⅰ、工芸教育法Ⅱ（通信）工芸教育法Ⅱ
博士（造形）。東京造形大学造形研究科博士後期課程修了。造形教育（国際協力分野）を専攻。東京造形大学造形学部教職課程教授。共著に『ART×国際協力-世界中に風を通す扉を-』『ART×国際協力-世界中に風を通す扉を-平和を探る-II』青山社、『中学校美術教科書』及び『指導書』日本文教出版、『観点別学習状況の評価基準と判定基準・中学校美術』図書文化、『図工・美術科教育』一藝社等。東京都公立中学校主幹教諭、香港日本人学校中学部教諭、東京学芸大学附属竹早中学校教諭、パラグアイ国立教員養成校講師等を歴任。

詳細参考 東京造形大学教員プロフィール

3 ■ 教職課程の授業科目の概要 ■ (施行規則第22条の6第3号)

■ 定員及び課程認定状況

定員などは 2019(平成 31)年度の再課程認定に基づく「新課程」の課程認定を受けた学科のみを示します。なお、油絵学科油絵専攻及び版画専攻(2023(令和 5)年度からグラフィックアート専攻に名称変更)は、2 専攻の形態でカリキュラムを行うことで 2021(令和 3)年度の課程認定を受けて認可されています。課程認定を受けていない学科は除いています。

(通学課程) 1 種免許状の課程

	(通学課程) 課程認定学科専攻	定員			免許種別・免許教科
		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	
造 形 学 部	日本画学科	39		156	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校 1 種免許状 美術 ・高等学校 1 種免許状 工芸 ・中学校 1 種免許状 美術
	油絵学科 油絵専攻	120	6	492	
	※グラフィックアート専攻	20		80	
	(小計)	140		(572)	
	彫刻学科	31		124	
	視覚伝達デザイン学科	117	4	476	
	工芸工業デザイン学科	120	4	488	
	空間演出デザイン学科	108	4	440	
	芸術文化学科 (デザイン情報学科)	72 76	3	294 304	

通学課程のうちデザイン情報学科は 2019(平成 31)年度より新課程の課程認定を受けていない。建築学科、基礎デザイン学科、映像学科は課程認定を受けていない。

※令和5年度からグラフィックアート専攻に名称変更。

(通学課程) 専修免許状の課程

	(通学課程) 課程認定専攻	定員		免許種別・免許教科
		入学定員	収容定員	
大 学 院	修士課程 美術専攻	50	100	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校専修免許状 美術 ・高等学校専修許状 工芸
	修士課程 デザイン専攻	45	90	

(通信教育課程) 1 種免許状の課程

	(通信教育課程) 課程認定学科専攻	定員				免許種別・免許教科
		入学 定員	編入学定員		収容 定員	
			2年次	3年次		
造 形 学 部	油絵学科	200	30	50	990	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校 1 種免許状 美術 ・高等学校 1 種免許状 工芸 ・中学校 1 種免許状 美術
	芸術文化学科	60	10	20	310	
	(デザイン情報学科)	(150)	(30)	(30)	(750)	

通信教育課程のうちデザイン情報学科は2019（平成31）年度より課程認定を受けていない。

■教職に関する科目一覧

授業科目名称について、旧「道徳教育の研究」「生活指導の研究」「特別活動の研究」「教育実践の研究」の「研究」が「指導と方法」となるなど、2018(平成30)年度より一部変更となりました。2019(平成31)年度から新法による再課程認定により新課程となります。なお、油絵学科については、文部科学省による課程認定のルール変更により、油絵専攻と版画専攻という二つの専攻ごとに改めて課程認定を受け、2021(令和3)年4月より実施します。これに伴う実質的な変化はありませんが、証明等に用いる正規の授業科目名が次のとおり他学科とは異なります。

*2021(令和3)年度油絵学科油絵専攻及び版画専攻入学者（通学課程のみ）より適用

教育原理Ⅰ → 教育原理

教育原理Ⅱ → 教育制度論

生活指導の理論と方法（生徒指導、進路指導及びキャリア教育を含む）

→ 生徒指導の理論と方法（進路指導及びキャリア教育を含む）

詳細参照 授業科目のシラバスは大学のウェブページをご覧ください。

(新法) 教育職員免許法施行規則による規定			武蔵野美術大学			
施行規則に定める科目区分等	各科目に含める必要事項	単位数	通学課程		通信教育課程	
			科目	単位数	科目 Tは通信授業Sは面接授業	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		美術教育法Ⅰ	2	美術教育法Ⅰ	T2
			美術教育法Ⅱ	2	美術教育法Ⅱ	T1S1
			美術教育法Ⅲ	2	美術教育法Ⅲ	T2
			美術教育法題材開発	2	美術教育法Ⅳ	T1S1
			工芸教育法Ⅰ	2	工芸教育法Ⅰ	T2
			工芸教育法Ⅱ	2	工芸教育法Ⅱ	T1S1
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	10	教育原理Ⅰ＊ 教育学特別演習	2 2	教育原理Ⅰ	T2
			教師論	2	教師論	T2
			教育原理Ⅱ＊	2	教育原理Ⅱ	T2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	中12 高6	教育心理学	2	教育心理学	T2
			特別支援教育	2	特別支援教育	T2
			*教育方法（ICT活用を含む）には、「教育課程の意義及び編成の方	別欄	*教育方法（ICT活用を含む）には、「教育課程の意義及び編成の方	別欄

			法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。		法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳教育の理論と方法	2	道徳教育の理論と方法	T2
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	2	総合的な学習の時間の指導法	T2
	特別活動の指導法		特別活動の理論と方法	2	特別活動の理論と方法	T2
	教育の方法及び技術		教育方法（ICT活用を含む） 教育方法特別演習	2 2	教育方法（ICT活用を含む）	T1S1
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		*教育方法（ICT活用を含む）を含む。		*教育方法（ICT活用を含む）を含む。	
	生徒指導の理論及び方法		生活指導の理論と方法（生徒指導、進路指導及びキャリア教育を含む） *	2	生活指導の理論と方法	T2
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		教育相談論	2	教育相談論	T2
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅰ	S2
			教育実習Ⅱ	2	教育実習Ⅱ	S2
			教育実践の理論と方法	1	教育実践の理論と方法	S1
	教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2	教職実践演習（中・高）	T1S1
大学が独自に設定する科目 （旧）教科又は教職に関する科目					介護等体験	T1S1
					ワークショップ研究Ⅰ	T1S1
					ワークショップ研究Ⅱ	T1S1

年間の授業計画（2026(令和8)年度）

2026(令和8)年度の授業計画は次のとおりです。

*2026(令和8)年4月1日現在の予定であり、変更となる可能性があります。

月	日	週	通学課程学事予定	通信教育課程学事予定	備考
4	30 - 31				
	1 - 4		入学式 4/2(木) / オリエンテーション週間・履修登録期間 4/2(木)~4/16(木)	4/1(水)4月生入学・編入学	
	6 - 11	1	前期授業開始 4/9(木)		
	13 - 18	2			
5	20 - 25	3		4/24(金)春期週末スクーリング開始	
	27 - 2	4			4/29(火)昭和の日は授業日
	4 - 9	5			
	11 - 16	6	前期履修取消期間 5/11(月)~16(土)		
6	18 - 23	7			
	25 - 30	8		5/31(日)第1回科目試験	
	1 - 6	9			
	8 - 13	10			
7	15 - 20	11			
	22 - 27	12			
	29 - 4	13			
	6 - 11	14		7/12(日)春期週末スクーリング終了	
8	13 - 18	15	前期授業終了(文化総合科目)7/15(水) 前期補講・講義科目定期試験週間 7/16(木)~22(水)	7/14(火)夏期スクーリング開始	
	20 - 25	16	夏季休業 鷹の台:7/23(木)~8/29(土)	7/20(月・祝)第2回科目試験	7/21(月)海の日は 補講・試験日
	27 - 1	17			
	3 - 8				
	10 - 15				
	17 - 22			8/23(日)夏期スクーリング終了	
24 - 29		後期修正履修登録 8/27(木)・8/28(金)	8/30(日)第3回科目試験		
9	31 - 5	18	後期授業開始 8/31(月)	9/4(金)秋期週末スクーリング開始	
	7 - 12	19			
	14 - 19	20			9/15(月)敬老の日は授業日
	21 - 26	21			9/23(火)秋分の日は授業日
10	28 - 3	22	後期履修取消期間 9/28(月)~10/3(土)		
	5 - 10	23		10/11(日)秋期週末スクーリング終了	
	12 - 17	24		10/12(月・祝)第4回科目試験 10/16(金)冬期週末スクーリング開始	10/13(月)スポーツの日は 授業日

11	19 - 24		芸術祭活動準備 10/19(月)~22(木) 祭典 10/23(金)~25(日)		
	26 - 31		整理 10/26(月)~10/28(水) 休講 10/29(木)~10/31(土)		10/30(木)創立記念日
	2 - 7	25			11/3(月)文化の日は授業日
	9 - 14	26			
	16 - 21	27			
12	23 - 28	28		11/23(月・祝)第5回科目試験	11/24(月)振替休日は授業日
	30 - 5	29			
	7 - 12	30	後期授業終了(文化総合)12/12(土)		
1	14 - 19	31	後期補講・講義科目定期試験週間 12/14(月)~19(土)		
	21 - 26		冬季休業 12/21(月)~1/5(火)		
	28 - 2				
	4 - 9	32			
	11 - 16	33	卒業・修了制作展(鷹の台キャンパス) 1/14(木)~17(日)		1/12(月)成人の日は卒業制作 ・論文提出・採点日
2	18 - 23	34		1/24(日)第6回科目試験 1/24(日)冬期週末スクーリング終了	
	25 - 30	35			
	1 - 6				
	8 - 13				
	15 - 20				
3	22 - 27				
	1 - 6			3/4(木)~7(日)卒業制作・卒業研究展	
	8 - 13		3/19(金)卒業式		
	15 - 20			3/19(金)卒業式	
	22 - 27				
	29 - 31				

4 ■免許状の授与件数■ (施行規則第22条の6第4号)

■教職課程受講者人数

教職課程の受講が可能な者は、通学課程では課程認定を受けた造形学部8学科と大学院造形研究科2専攻の1年次の学生と、同卒業生の科目等履修生です。通信教育課程では、造形学部4学科の2年次以上で、取得単位数等の条件を満たした学生が受講可能となり、さらに本学卒業生や現職教員を科目等履修生で受け入れています。令和4年度より通学課程のデザイン情報学科旧課程該当者がいないため「情報」項目を削除しました。

○通学課程 2025(令和7)年5月1日現在

(通学課程) 課程認定学科専攻		登録者数					免許科目		
		1年	2年	3年	4年	小計	中学	高等学校	
							美術	美術	工芸
造 形 学 部	日本画学科	17	11	10	8	46	46	46	8
	油絵学科 油絵専攻	42	35	26	31	134	134	134	32
	油絵学科 版画専攻	-	-	-	4	4	4	4	2
	油絵学科 グラフィックアート専攻	4	4	3	-	11	11	11	0
	彫刻学科	14	7	8	10	39	39	39	12
	視覚伝達デザイン学科	10	4	8	2	24	24	24	3
	工芸工業デザイン学科	25	14	12	7	58	58	58	26
	空間演出デザイン学科	14	8	9	7	38	38	38	5
	芸術文化学科	20	17	21	11	69	69	69	11
	科目等履修生	-					8	8	8
造形学部小計		146	100	97	80	423※	431	431	103
大 学 院	美術専攻	11	6	-	-	17	17	17	6
	デザイン専攻	3	0	-	-	3	3	3	3
	大学院小計		14	6	-	-	20	20	20
合計		160	106	97	80	443	451	451	112

※ 科目等履修生を含まない。

履修登録については、中学校と高等学校の美術免許状を基本として、希望により工芸免許状を加えて登録している。

○通信教育課程 2025(令和7)年5月1日現在

(通信教育課程) 課程認定学科		登録者数					免許教科				
		1年	2年	3年	4年	小計	中学	高等学校			
							美術	美術	工芸	(情報)	
造 形 学 部	油絵学科	-	8	24	75	107	88	97	25	(0)	
	工芸工業デザイン学科	-	0	0	2	2	2	2	2	(0)	
	芸術文化学科	-	1	12	26	39	33	35	16	(0)	
	デザイン情報学科	-	0	3	29	32	24	27	11	(2)	
	科目等	卒業生特例					64	49	53	31	(1)
	履修生	教職生					86	67	37	27	(1)
造形学部小計		-	9	39	132	330	263	251	112	(4)	

通信教育課程の教職課程履修登録は2年次より。卒業生特例は本学造形学部(通学課程を含む)の卒業生について、教職生は現職の学校教員で校長等の推薦のある者について、教員免許状の取得を目的として履修する者である。

■免許状授与件数

通学課程の免許状は、大学を通じて免許状授与権者である東京都教育委員会に卒業修了年次に教育職員免許法施行規則別表1の科目について「一括申請」を行うために正確な数値がわかります。これに対して、各都道府県教育委員会に学生が「個別申請」を行うことが一般的な通信教育課程では、実数の把握が困難となっています。

【詳細参照】 過年度の免許状授与件数は『武蔵野美術大学年報』をご覧ください。

○通学課程

(1) 2021(令和3)年度卒業生

	(通学課程) 課程認定学科専攻	授与者数	免許取得者数(免許状種別ごとに表示)			
			高等学校			中学校
			美術	工芸	情報	美術
造形学部	日本画学科	10	10	1	-	10
	油絵学科	30	30	4	-	30
	彫刻学科	9	9	4	-	9
	視覚伝達デザイン学科	5	5	0	-	5
	工芸工業デザイン学科	11	11	8	-	11
	空間演出デザイン学科	8	8	3	-	8
	芸術文化学科	10	10	2	-	10
	デザイン情報学科	0	-	-	0	-
	科目等履修生	3	3	2	-	3
	造形学部小計	86	86	24	0	86
大学院	美術専攻	8	8	1	-	8
	デザイン専攻	0	0	0	-	0
	大学院小計	8	8	1	-	8
	大学合計	94	94	25	0	94

(2) 2022(令和4)年度卒業生 令和4年度よりデザイン情報学科旧課程該当者なし。

	(通学課程) 課程認定学科専攻	授与者数	免許取得者数(免許状種別ごとに表示)			
			高等学校			中学校
			美術	工芸	情報	美術
造形学部	日本画学科	6	6	0	-	6
	油絵学科	12	12	0	-	12
	彫刻学科	5	5	1	-	5
	視覚伝達デザイン学科	3	3	1	-	3
	工芸工業デザイン学科	7	7	4	-	7
	空間演出デザイン学科	7	7	2	-	7
	芸術文化学科	5	5	1	-	5
	科目等履修生	1	1	0	-	1
	造形学部小計	46	46	9	-	46
大学院	美術専攻	5	5	0	-	5
	デザイン専攻	0	0	0	-	0

院	大学院小計	5	5	0	-	5
	大学合計	51	51	9	-	51

(3) 2023(令和5)年度卒業生

(通学課程) 課程認定学科専攻		授与者数	免許取得者数(免許状種別ごとに表示)		
			高等学校		中学校
			美術	工芸	美術
造形学部	日本画学科	8	8	2	8
	油絵学科	19	19	2	19
	彫刻学科	7	7	3	7
	視覚伝達デザイン学科	4	4	1	4
	工芸工業デザイン学科	2	2	1	2
	空間演出デザイン学科	3	3	0	3
	芸術文化学科	5	5	1	1
	科目等履修生	6	5	3	5
	造形学部小計	54	53	13	53
大学院	美術専攻	16	16	1	16
	デザイン専攻	1	1	1	1
	大学院小計	17	17	2	17
	大学合計	71	70	15	70

(4) 2024(令和6)年度卒業生

(通学課程) 課程認定学科専攻		授与者数	免許取得者数(免許状種別ごとに表示)		
			高等学校		中学校
			美術	工芸	美術
造形学部	日本画学科	2	2	1	2
	油絵学科	18	18	3	18
	彫刻学科	10	10	1	10
	視覚伝達デザイン学科	1	1	0	1
	工芸工業デザイン学科	10	10	3	10
	空間演出デザイン学科	6	6	2	6
	芸術文化学科	10	10	2	10
	科目等履修生	6	5	1	5
	造形学部小計	64	63	13	63
大学院	美術専攻	5	5	0	16
	デザイン専攻	0	0	0	0
	科目等履修生	1	1	0	1
	大学院小計	5	5	0	16
	大学合計	69	68	13	68

(5) 2025(令和7)年度卒業生

(通学課程) 課程認定学科専攻		授与者数	免許取得者数(免許状種別ごとに表示)			
			高等学校			中学校
			美術	工芸	情報	美術
造形学部	日本画学科	8	8	1	0	8
	油絵学科油絵専攻	26	26	4	0	26
	油絵学科版画専攻	3	3	1	0	3
	彫刻学科	8	8	4	0	8
	視覚伝達デザイン学科	2	2	0	0	2
	工芸工業デザイン学科	7	7	1	0	7
	空間演出デザイン学科	6	6	0	0	6
	芸術文化学科	11	11	0	0	11
	デザイン情報学科	0	0	0	0	0
	科目等履修生	4	4	1	0	4
	造形学部小計	75	75	12	0	75
大学院	美術専攻	7	7	0	0	7
	デザイン専攻	0	0	0	0	0
	大学院小計	7	7	0	0	7
大学合計		82	82	12	0	82

○通信教育課程「別表1」の一括申請

卒業生特例は本学造形学部(通学課程を含む)の卒業生について、教職生は現職の学校教員で校長等の推薦のある者について、教員免許状の取得を目的として履修する科目等履修生です。通信教育課程の特徴として、卒業段階で免許状授与権者である東京都教育委員会に大学を通じて「別表1」について申請を行う「一括申請」の割合が低くなります。編入学者や科目等履修生など様々な時期に居住地の道府県教育委員会に行ったり、「別表3」「別表4」「別表8」により既修得免許状などを前提に申請する「個別申請」の比重が高くなります。この「個別申請」では、大学は証明書の発行等々を行うが、授与権者からの免許状の授与の仲立ちを行わないため、最終的な免許状授与件数の把握が難しいのが実態です。

(1) 2021(令和3)年度通信教育課程卒業生のうち一括申請者

(通信教育課程) 課程認定学科		授与者数	免許教科			
			中学	高等学校		
			美術	美術	工芸	情報
造形学部	油絵学科	9	3	4	1	1
	工芸工業デザイン学科					
	芸術文化学科					
	デザイン情報学科	4	1	2	1	
	造形学部小計	13	4	6	2	1

(2) 2022(令和4)年度通信教育課程卒業者のうち一括申請者

	(通信教育課程) 課程認定学科	授与者数	免許教科			
			中学	高等学校		
			美術	美術	工芸	情報
造形学部	油絵学科	4	4	4		
	工芸工業デザイン学科					
	芸術文化学科					
	デザイン情報学科					
	造形学部小計	4	4	4		

(3) 2023(令和5)年度通信教育課程卒業者のうち一括申請者

	(通信教育課程) 課程認定学科	授与者数	免許教科			
			中学	高等学校		
			美術	美術	工芸	情報
造形学部	油絵学科	4	4	4		
	工芸工業デザイン学科	1	1	1		
	芸術文化学科					
	デザイン情報学科					
	造形学部小計					

(4) 2024(令和6)年度通信教育課程卒業者のうち一括申請者

	(通信教育課程) 課程認定学科	授与者数	免許教科			
			中学	高等学校		
			美術	美術	工芸	情報
造形学部	油絵学科					
	工芸工業デザイン学科					
	芸術文化学科					
	デザイン情報学科	2	1	1	1	1
	造形学部小計	2	1	1	1	1

(5) 2025(令和7)年度通信教育課程卒業者のうち一括申請者

	(通信教育課程) 課程認定学科	授与者数	免許教科			
			中学	高等学校		
			美術	美術	工芸	情報
造形学部	油絵学科	4	4	4	1	
	工芸工業デザイン学科					
	芸術文化学科					
	デザイン情報学科	1	1	1		
	造形学部小計	5	5	5	1	

○通信教育課程の個別申請件数(申請証明書発行数)

通信教育課程では、本学編入学前や本学卒業又は退学後に修得し単位の証明書によって都道府県教育委員会(免許状授与権者)に対して「個人申請」を行って免許状を授与されるケースが多く存在します。これは大学が免許状の授受そのものに関与しないために実際の授与の確認が困難です。大学として把握できる証明書の発行数は次のとおりです。

	発行者数	学生所属学科内訳				科目等履修生		別表の内訳			
		油絵学科	工芸工業 デザイン 学科	芸術文化学 科	デザイン 情報学科	卒業 生特 例	教職 生	別 表 1	別 表 3	別 表 4	別 表 8
2021(令和3)年度	51	11	2	8	2	8	20	28	1	17	5
2022(令和4)年度	41	7	2	5	1	9	17	20	0	18	3
2023(令和5)年度	36	8	0	4	0	15	9	24	1	9	2
2024(令和6)年度	50	9	1	3	3	11	23	21	2	19	8
2025(令和7)年度	47	7	1	7	7	11	14	27	0	15	5

項目「免許状更新講習実施数」は法令改正(免許状更新講習の廃止)に伴い第9年報より掲載をしていません。

5 ■就職状況■ (施行規則第 22 条の 6 第 5 号)

■東京都教員選考合格者実績

東京都教育委員会の公立学校教員選考についての採用実績を記載します。東京都の美術教員の採用では、小学校図画工作科専科教員と中学校美術科、中学校美術科と高等学校美術科をあわせて実施されています。「名簿登載者」は教諭としての合格者、「期限付」は期限付名簿登載者として1年間の講師の合格者をさし、これらのデータには他の時期の選考試験や講師等の個別の採用を含みません。

採用年度	小・中学校		中・高等学校		特別支援学校		合計		
	名簿登載者	期限付	名簿登載者	期限付	名簿登載者	期限付	名簿登載者	期限付	合計
2022(令和4)年度	8 (0)	2 (1)	7 (2)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	15 (2)	6 (3)	21 (5)
2023(令和5)年度	6 (1)	1 (0)	6 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	13 (2)	2 (0)	15 (2)
2024(令和6)年度	7 (3)	0 (0)	6 (2)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	14 (5)	1 (0)	15 (5)
2025(令和7)年度	9 (1)	0 (0)	9 (5)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	19 (6)	0 (0)	19 (6)
2026(令和8)年度	2 (1)	0 (0)	3 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (4)	2 (2)	8 (6)

() 内は卒業見込み

■学校教員の採用実績

武蔵野美術大学キャリアセンターでは、各都道府県教育委員会・政令指定都市教育委員会に照会して卒業生の公立学校教員採用数を調査しています。また当年3月卒業者についての就職調査では私立学校や非常勤講師、大学助手等の就職状況も調査されています。これらのデータは、キャリアセンターを通じて説明会等で学生の参考に提示されるとともに、また「教師論」や「教育実践の研究」などの授業においても学生に伝えられています。

採用年度	各教育委員会による回答の集計 *1 (教諭等の専任者のみ)				キャリアセンターによる 当年3月卒業者の集計
	中学校 美術	高等学校 美術	高等学校 情報	合計	小中高特支等 学校教員
2022(令和4)年度	8	5	0	13	0
2023(令和5)年度	25	3	0	28	5
2024(平成6)年度	20	1	0	21	4
2025(令和7)年度	28	5	0	33	1
2026(令和8)年度	19	0	0	19	1

*1 2026(令和8)年度について、キャリアセンターによる当年度卒業者集計は、2026(令和8)年3月27日現在の数値で今後の変更がありうる。「各教育委員会による回答の集計」欄は各教育委員会のアンケートに基づく最終選考の合格者数。「キャリアセンターによる当年3月卒業者の集計」欄は2026年3月卒業生で届出のあったうち、小・中・高・特別支援の教員に採用された数。

6 ■質向上の取組■ (施行規則第22条の6第6号)

武蔵野美術大学は、教育職員免許法施行規則等に定める授業科目の充実に努めるほか、大学独自の質向上の取組として次の取組を実施しています。

■教職課程自己点検評価書の公表

教育職員免許法に基づく教育課程の自己点検・評価については、教職課程自己点検評価作業委員会(委員長大坪圭輔)『令和4年度 教職課程自己点検・評価報告書』武蔵野美術大学 造形学部 2022(令和4)年12月(全62頁)として作成しています。計画に従って4年目となる2026(令和8)年度には第2回の自己点検評価を実施する予定です。

次の大学ウェブページに全文を公開しています。

https://www.musabi.ac.jp/wp-content/uploads/2022/12/tc_report_2022.pdf

■大学独自教科書の発行

通信教育課程における教職課程の教科書として多くの教科書を刊行して、また同書を通学課程の教科書としても活用することにより、授業及び授業前後の学生による学習に効果を上げています。常に新しい教育動向を反映するため、随時教科書の改訂を計画に従って実施しています。

編著者	書名	刊行年月	出版社	通信教育課程該当科目
高橋陽一	チーム学校の教師論	2021年4月	武蔵野美術 大学出版局	教師論
高橋陽一著	新しい教育通義 増補改訂版	2018年3月 2023年4月	武蔵野美術 大学出版局	教育原理I・II
三澤一実監修	美術教育の題材開発	2014年4月	武蔵野美術 大学出版局	教育方法、美術教育法I・II I・IV、工芸教育法II
大坪圭輔著	美術教育資料研究	2014年4月	武蔵野美術 大学出版局	美術教育法I・II・III・IV 、工芸教育法I
大坪圭輔著	工芸の教育	2017年4月	武蔵野美術 大学出版局	工芸教育法I
高橋陽一著	新版 道徳教育講義	2012年4月	武蔵野美術 大学出版局	道徳教育の理論と実践
高橋陽一・伊東毅著	道徳科教育講義	2017年4月	武蔵野美術 大学出版局	道徳教育の理論と実践
伊東毅著	未来の教師と考える 特別活動論	2022年4月	武蔵野美術 大学出版局	特別活動の理論と実践
高橋陽一・伊東毅編	新しい生活指導と進 路指導	2013年4月	武蔵野美術 大学出版局	生活指導の理論と実践
高橋陽一・伊東毅編	新しい教育相談論	2016年4月	武蔵野美術 大学出版局	教育相談論
大坪圭輔・三澤一実 編	美術教育の動向	2009年4月	武蔵野美術 大学出版局	美術の歴史と鑑賞、教職実 践演習
高橋陽一編	造形ワークショップ をつくる	2026年4月	武蔵野美術 大学出版局	ワークショップ研究I・II

高橋陽一編	特別支援教育とアート	2018年3月	武蔵野美術 大学出版局	新課程「特別支援教育」
高橋陽一編	総合学習とアート	2019年4月	武蔵野美術 大学出版局	新課程「総合的な学習の時間の指導法」
大坪圭輔編	求められる美術教育	2020年3月	武蔵野美術 大学出版局	教職実践演習（中・高） 美術の歴史と鑑賞
三澤一実編	美術の授業のつくりかた	2020年3月	武蔵野美術 大学出版局	教育方法 美術教育法Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ 教職実践演習（中・高）
高橋陽一・伊東毅編	これからの生活指導と進路指導	2020年3月	武蔵野美術 大学出版局	生活指導の理論と方法

■美術と福祉プログラム

1998(平成10)年度より開始された「美術と福祉プログラム」は、教職課程履修者に適用される介護等体験法にもとづく本学独自の取組です。2006(平成18)年度には文部科学省より「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)に選定されました。2015(平成27)年度は、教職課程2年次の必修科目(情報免を除く)として「美術と福祉」(通年2単位演習科目、教科又は教職に関する科目に該当、7クラス開講)をゼミ形式で開設しています。運営は小平市内の6つの社会福祉施設と提携して外部評価委員会を置いて実施しています。教職課程研究室の高橋陽一教授が全体を担当して、各クラスは、杉山貴洋講師、川本雅子講師、田中千賀子講師、佐々木敏幸講師、近藤美智子講師(2026年度より。有福一昭講師は2025年度で退任)が担当しています。

2019(平成31)年度からの再課程認定による新課程においては、前期2単位科目「総合的な学習の時間の指導法」と後期2単位科目「特別支援教育」として実施し、これらの授業のなかでコアカリキュラム等に指定する必要な理論と実践を学びながら、さらに「美術と福祉プログラム」の内容を含み込むことで高度に実践的な授業内容と展開します。また、通学と通信を通じて、『特別支援教育とアート』と『総合学習とアート』の二つの教科書を刊行しました。

詳細参照 美術と福祉プログラムウェブページ www.musabi.ac.jp/gp/ 『美術と福祉プログラム報告書』2006年度～2008年度、高橋陽一『美術と福祉とワークショップ』武蔵野美術大学出版局2009年。高橋陽一編『特別支援教育とアート』武蔵野美術大学出版局2018年。高橋陽一編『総合学習とアート』武蔵野美術大学出版局2019年。

■造形ファシリテーション能力獲得プログラム

造形ファシリテーション能力獲得プログラムは、全学科の学生を対象にして、教職課程研究室を中心に造形学部全体が連携して実施しており、造形ワークショップを支える能力としての造形ファシリテーション能力を獲得するための取組です。「造形ファシリテーション能力獲得プログラム — 造形ワークショップの記録と表現による学士力の形成」として2009(平成21)年には文部科学省より「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム(テーマA)に選定されました。現在は高橋陽一担当「ワークショップ実践研究Ⅰ」、三澤一実・齋藤啓子担当「ワークショップ実践研究Ⅱ」(各半期2単位)として開講しましたが、2026(令和8)年度より通学課程では授業科目を廃止しました。通信教育課程では引き続き「ワークショップ研究Ⅰ」(2単位)と「ワークショップ研究Ⅱ」(2単位)として継続しています。

詳細参照 造形ファシリテーション能力獲得プログラムウェブページ www.musabi.ac.jp/gp/ 『造形ファシリテーション能力獲得プログラム報告書』2009年度～2011年度、高橋陽一『造形ワークショップを支える』武蔵野美術大学出版局2012年。高橋陽一『ファシリテーションの技法』武蔵野美術大学出版局

2019年。

■旅するムサビ・ムサビる

旅するムサビ・ムサビるは、教職課程研究室の三澤一実の指導で、教職課程履修学生を中心に学生主体の課外活動として、小中学校や地域団体と連携して行われる美術教育の活動です。図画工作科・美術科の教員と連携して、造形ワークショップ、児童生徒参加の展示活動、黒板ジャック、公開制作などの様々な取組が行われています。

詳細参照 大学公式ページ www.musabi.ac.jp/collaboration/spread/tabimusa_project 学生参加による公開ページ tabimusa.exblog.jp

■学校ボランティア・インターンシップ

武蔵野美術大学教職課程研究室は、近隣小中学校を中心に積極的に学生が学校現場に関わるボランティア活動の機会の提供に努めています。一般大学と異なって実技授業時数の多い美術大学の特性から通常の授業期間での学校ボランティア・インターンシップには困難があるため、授業がない期間に計画的に送り出す活動として位置づけています。2026(令和8)年春で第15期を迎えた「上砂川むさびプロジェクト」(立川市立上砂川小学校との連携)や小平市立中学校での学校ボランティア活動を展開しています。

■教職課程の授業評価

教職課程のすべての授業科目において、授業評価を実施して授業の改善に活用しています。通学課程では教職課程独自の調査用紙を用いて、授業科目ごとに全数調査で実施しています。通信教育課程では課程全体の授業評価調査(全学生・全科目対象)により実施しています。これらの調査結果は、各担当教員に伝えられるとともに、教職全体の授業科目改善のための資料として活用されています。

■児童生徒・保護者向けの情報公開

教職課程のあり方を広く社会に伝えるために、全学のオープンキャンパスの機会に1教室を使ったブース出展や公開授業を行っています。ブースでは教職課程の特色ある取組が展示され、教職課程研究室教員による模擬授業、教職課程履修学生が相談役となった大学紹介・入学相談活動を行いました。また小中高等学校教員によって引率された児童・生徒のスペースとしても活用されて定着しました。2022(令和4)年度においては、新型コロナウイルス対策として実施が中止となりました。

■教育研究施設の充実

美術と福祉プログラムの実施や学生の自主的な学習施設として1999(平成11)年4月に教職資料閲覧室が開設されました。教職資料閲覧室は、教職関係の図書や過去の介護等体験の記録類を備えた「閲覧室」、演習や準備を行う「演習室」、造形ワークショップの教材と記録を保管する「資料室」の3室から構成されています。2016(平成28)年4月からは、武蔵野美術大学14号館竣工に伴う施設充実に連動して、「演習室」を拡充して「美術演習室」2室(連結使用可能)と、教員の教育研究のための「教職課程研究室」が増設されました。

■研究室雑誌『造形と教育』の刊行

大学院での教員養成の取組として、大学院ゼミ「教育学研究」(高橋陽一担当)において大学院学生による調査研究の成果発表の場から展開して、研究室に関係する教員や学外の関係する研究者の共同の成果発表の場として、『造形と教育』ISSN2187-5376を発行しています。2026(令和8)年1月に第20号を刊行しました。

『造形と教育』は2024年4月に国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が運営する電子ジャーナルプラットフォームである「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)に掲載する申請が認められたので、第18号より2026(令和8)年1月の第20号までを公開しました。他の号も順次作業を進めています。

Online ISSN : 2759-436X

■学校教員等への就職支援

教職履修者の就職支援については、次のような取組を実施しています。

①教育委員会説明会の実施(キャリアセンター主催、教職課程研究室)

毎年秋を中心に教育委員会を招聘した説明会を実施している。従来は東京都教育委員会のみでしたが、2025年度実績では、東京都、埼玉県、さいたま市、神奈川県、川崎市、千葉県千葉市(合同)の6つの説明会を実施しました。

②卒業者を含む就職情報の提供(教職課程資料閲覧室)

教育委員会・学校等から寄せられる就職情報を提供するために、既卒者を含めてメーリングリストを作成して連絡を行っています。

③就職のための課外講座・個人指導の実施(教職課程研究室)

正規の授業での指導に加えて教員採用試験受験希望者を対象とした課外講座や個人指導を任意に実施している。Teamsを活用したオンラインでの課外講座(2025年度は15回)、教室での面接指導などを実施しています。

■美術教育・教職課程研究室への名称変更

2026(令和8)年4月1日より、「教職課程研究室」は、「美術教育・教職課程研究室」(英文: Art Education and Teaching Careers)と名称変更となりました。

武蔵野美術大学『武蔵野美術大学教職課程の概要 第12年報 2026(令和8)年4月1日現在』

第1年報	2015(平成27)年3月31日作成	4月1日公表	同6月10日	誤植訂正版
第2年報	2016(平成28)年3月31日作成	4月1日公表		
第3年報	2017(平成29)年3月31日作成	4月1日公表		
第4年報	2018(平成30)年3月31日作成	4月10日公表		
第5年報	2019(平成31)年3月31日作成	4月1日公表		
第6年報	2020(令和 2)年3月31日作成	4月8日公表		
第7年報	2021(令和 3)年3月31日作成	4月7日公表		
第8年報	2022(令和 4)年3月31日作成	4月1日公表		
第9年報	2023(令和 5)年3月31日作成	4月1日公表		
第10年報	2024(令和 6)年3月31日作成	4月1日公表		
第11年報	2025(令和 7)年3月31日作成	4月1日公表		
第12年報	2026(令和 8)年3月31日作成	4月17日公表		

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736

(通学課程)	学生支援グループ	教務チーム	資格担当
(通信教育課程)	学生支援グループ	通信教育チーム	教職課程担当
(研究室)	美術教育・教職課程研究室、教職資料閲覧室		